

審 議 会 会 議 録

会議名称	令和5年度第1回 再生可能エネルギー導入戦略検討委員会（伊達市環境審議会）		
議 題	■諮問（1件） 伊達市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について ■議事（1件） 伊達市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について		
開催日時	令和6年1月15日（月）13時30分～14時40分		
場 所	伊達市役所第2庁舎 第1会議室		
出席者	出席委員13名（欠席委員2名）		
	所管部課名	経済環境部環境衛生課 （経済環境部長・環境衛生課長・環境衛生課参事 環境衛生係長・環境衛生係主査 計5名）	
公 開 非 公 開 の 別	■ 公 開	傍聴者の人数	無し
	□ 非公開	非公開の理由	
【会議の概要】			
1 開 会			
◎事務局より開会宣言及び挨拶			
2 市長挨拶			
◎市長が公務により欠席につき、星副市長より挨拶			
3 出席者自己紹介			
◎自己紹介終了後、事務局より、委員定数15名中13名出席により会議が成立していることを報告。			
4 役員選出			
◎委員長及び副委員長を選出。委員長が選出されるまで、星副市長が仮議長となり議事進行。			
【質疑応答】			
■委員：事務局案に一任したいのですが、いかがでしょうか。			
■委員一同：異議なし。			
□事務局：委員長に伊達市農業協同組合の松本委員、副委員長に伊達市連合自治会の佐藤委員			
■委員一同：異議なし。了承			
5 諮 問			
(1) 伊達市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について			
◎副市長より委員長へ諮問			

6 議 事

(1) 伊達市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

◎委員長挨拶の後、事務局より伊達市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の内容を説明

◎あらかじめ事務局より計画書タイトルに関するご意見を後ほど委員の皆さまからいただきたいことを説明

<質疑応答>

■委員長：まずは、最初のメインタイトルについてですが、実行計画のタイトル案の第1から第5案までについて、ご意見願います。

■委員：難しいものより、なじみやすくわかりやすいものが良いと思う。

□事務局：今サブタイトル案にしている、伊達市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）というのが本来であればタイトルになりますけど、より市民の皆さんにもわかりやすいタイトルにしたいと考えています。

■委員：ゼロカーボンやカーボンニュートラルなどの言葉が一番ピンときますけど。他の4案については、何のことなのか、タイトルだけだとはっきりわからないなと思う。

■委員：わかりやすいのは「ゼロカーボン推進プラン」だと思いましたが、「持続可能な未来への一歩」を含めて、産業振興とゼロカーボンのどちらも取り組むようなものも良いと思います。

■委員：マスコミなどでゼロカーボンという言葉は聞いたことありますが、具体的にどういこうことをしてくのかというのは市民の方に伝わってないと思うので、もう少し外側から入ったほうが良いのかなと思います。その上では第3案はわかりやすいような感じはします。

□事務局：第3案と第5案をあわせるようなイメージで事務局にて検討したいと思うのですが、いかがでしょうか。

■委員長：事務局からご提案ありました第3案、第5案を利用し、タイトルを次回に向けて決定させていただきたいと思います。
次に、資料について皆さんのご意見をお受けしたいと思います。

□事務局：今回の地球温暖化対策計画では達成が厳しいものを多く載せており、市民の皆さまからは、達成の可能性などに関するご意見があると思いますが、本計画書は今後の国の補助金活用に役立つものでもあるので、内容ご理解願います。

■委員：ペレットストーブはCO2削減に寄与するものでしょうか。実際に燃やす時に二酸化炭素は出るとは思いますが。

■委員：再生可能エネルギーを循環して使うものについては排出される CO2 はプラスマイナスゼロということになっています。ものを燃やす以上、CO2 は発生しますが、再度、木が成長する過程で二酸化炭素を吸収する循環できるエネルギーであるため、CO2 はプラスマイナスゼロということになっています。

■委員：二酸化炭素の減少につながる伊達市有林や民有林の面積増減の実態はどのようになっているのでしょうか。

■委員：森林が増えるケースでは、例えば離農した農家さんが使い終わった畑を山林に戻したいというような手続きがあったり、逆に減るケースというのは、それこそソーラー発電をしたいので転用しますというようなケースで森林から別の用途に使われるということはあるかと思えます。ただ、私どもの認識では大幅に森林面積が10年、20年でスライドしていくようなものではないと認識しています。

■委員：伊達市の温室効果ガスの排出状況の建設・鉱業で33%減について、説明願います。

□デナジー：実測値ではなく、人口減とか、就業人口減などの統計数値が用いられた数値で、公表されているエネルギー消費量です。ご参考までに掲載させていただいております。CO2 の排出量と若干比例はしますが、排出量とは違う値であるということをご理解いただければと思います。

■委員長：エネルギー全体の消費量が減っているということは、経済活動も2013年から減ってきているのですか。

□デナジー：おおむねそのような傾向であります。伊達市だけではなく、このまま何もしなければ将来どれだけ削減するだろうというBAU推計で見ると、主に人口減によって各種活動量が減っています。各種係数を用いて推計します。伊達市だけではなく、北海道内各地域で減少していくものです。CO2 についても同様に減少していきます。ただし、政府の目標が2030年度で46%、それを上回る削減をしていきたいということをご理解いただければと思います。

■委員：電気工事業界では、人口減にともなって機械化が発達しています。昔は高所作業車ってというのが1台か2台あたり20から30人くらいの作業人数で仕事をしていましたが、現在、十数名あたり高所作業車を7台くらい使用して作業をしています。電線も人が引っ張っていたものを機械が巻き取るというような形です。相当燃料消費というのが増えてる感覚があります。おそらく工業系に関して人口減で機械化が増えるので、反比例してガスの排出量が増えてくると思います。

□事務局：建設業界では化石燃料を使わない機械化は進まない状況でしょうか。

■委員：10年ぐらい前はバッテリー車が主流でしたが、北海道の冬では、バッテリーの劣化がものすごく、本州だと10年使えるものが北海道では5年しか使えないとい

うことがあります。バッテリーを入れ替えるとなると、高額なのでコストを抑えるため、エンジン式を利用する状況です。

■委員：すべての産業の温室効果ガスをゼロにすることは難しいので、排出する産業と抑えることができる産業をあわせてニュートラルにする考え方をしていく必要があります、全産業の排出量をゼロにする進め方はちょっと違うと考えています。

■委員長：トラクターは軽油を使っています。電動トラクターは、力がなくて仕事にならないと思っています。農繁期だと、トラクターを朝から晩まで動かすと、だいたい1日に150から200リットル近い軽油を消費します。同様の作業を電動によるトラクターで行うのは難しいと考えています。
農業では、作物の光合成によって二酸化炭素を吸収しているので、ある程度はプラスマイナスゼロになっているとも考えています。

■委員：資料で伊達市の温室効果ガスの排出は家庭部門からの排出が多く、全国の2倍で全道の約1.5倍になっている理由を教えてください。

□事務局：他の市町村の構成と比べると、工場などが少なく家庭から出る割合が多いためです。1軒あたりからのCO2排出量が多いというものではありません。

■委員：地球温暖化問題は、市民がひとりひとりの意識を変革していかないと温室効果ガス排出抑制に結びつかないと思います。計画目標ということよりも、車を使わずに健康のために歩くことを推進するなどの啓蒙活動から行うのが原点かなと考えています。

□事務局：この計画は作って終わりではなく、実行するために啓蒙していくことがスタートであると考えています。

■委員：案件が複雑であるため、今後は、委員からいただきたい意見は何かを事務局から示し、交通整理したうえで議論を進めていただきたいと考えています。交通整理を事務局のほうでもう少しやっていただければ助かると思います。

□事務局：今回、第1回目なので、この素案の考え方などに対するご意見をいただきたいと思います。次回以降に市民の皆さんにどうアピールするのか、あるいは市民に対する周知の方法、あるいはどうやって取り組んでいただくのか、などについては整理するという形でお願いしたいと考えています。

■委員長：概要については、この文書をもって処理させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。皆さんからこの他についてご意見等がありますか。ないようでしたら、次回に向けて、タイトルの提案と今まで皆さんからいただいた意見を集約して次回に案をまとめて皆さんにお示ししたいと思います。それでよろしいでしょうか。

■委員一同：了承

■委員長：オブザーバーの方からご意見ございましたら、よろしくお願ひします。

□環境省北海道地方環境事務所：本日は議論、参加させていただきまして、ありがとうございます。おそらく今は区域施策編の概念的なところを共有いただいているかと思ひます。次回以降は多分、それをもってどのように進めていくのかという中身の議論が始まるかと思ひます。もちろん脱炭素を達成することが大切なんですけれども、その脱炭素をすることによってその地域が疲弊してしまつては意味がありません。地域にとってどのような方法論を用いることが適しているのかということをしつかり議論いただきながら、脱炭素を手段として使つていただくよう議論いただければと思ひておりますので、次回もどうぞよろしくお願ひいたします。

□胆振総合振興局：引き続き議論いただければなと思ひるところです。他の町の実行計画とかにも関わつていてる上で感じてることですが、この実行計画は脱炭素という切り口ではありますが、結局は町づくりに関わつてくるころだと思ひます。脱炭素の切り口の1つにはなつてはいるとは思ひますけど、そういった視点で今後計画づくり、私たちも協力できればなと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

■委員長：ありがとうございます。デナジー様からご意見などありますか。

□デナジー：今回の区域施策編は、いわゆる環境省にいろんな手を差し伸べていただくための入場券というものを伊達市としては手にされることになろうかと思ひます。今回の策定される計画をいかに実行していくかというところでいろいろなメニューを環境省としては用意してくださつてるので、その辺をどのような組み合わせで、どのようなタイミングで活用していくのが伊達市の市民の皆さまにとって産業振興に資する、市民の生活レベルを上げていくことにつながつていくのかといったような観点で次回以降より一層議論を深めていただければ感じております。

■委員長：事務局からその他について、何かありましたらお願ひします。

7 その他

□事務局：次回の委員会は、パブリックコメントを終えた4月中に開催を予定しております。内容としましては、パブリックコメントでいただいた意見に対する市の回答などについて、ご意見いただこうと思ひております。日程が決まりましたら、またご案内させていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。また、この委員会ですが、計画策定の委員会でございまして、計画ができましたら、この委員会については解散されます。市役所の内部の組織も作ろうかと現在考えていますが、その後市内の各種団体等から意見調整のための組織を作

り、この中で計画の推進であったり、市民への周知などを議論していければな
と考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

8 閉 会